

コロナ禍から大学生活が日常に戻り、一年以上が経とうとしています。コロナ禍においては、皆、できるだけ人と会う回数、話す機会を減らすことを求められていました。私自身も、人と話し合うことが求められる際、「これは会って話す意味があるのか」「オンラインか電話でどうにかなるものではないか」「会うことを嫌がられないかな」などと、会わない方法を考えていたことが多かったように思います。同時に、このような環境や自身の考えに窮屈さを感じていました。今、在学されている学生の皆さんは高校生の年代にこのような経験をされた

のですね。どのような思いで高校生活を過ごされたのだろう、と想像しています。

自身の大学生活を思い返してみると、授業が終わった後、友人と教室に残り、おしゃべりをした時間、授業について「ここがわかりにくいよね」と話した時間などが記憶に蘇ります。それは大学生活

のほんの余白の部分であったかもしれないけれど、そのように過ごした友人との時間は、私の学生生活を彩ってくれました。

大学では、「居場所がない」「ちょっと休める場所がない」「空きコマをどう過ごしていいかわからない」と話される学生の方がいらっしゃいます。大学の時間の流れに

追われているように感じられる方もいらっしゃると思います。学生相談室では、コロナ禍でしばらくお休みしていた「フリースペース」を再開しました。一息つきたいとき、大学の中で自分のペースを取り戻したいとき、訪れていただければと思います。再開後のフリースペースからは時々、賑やかな話し声が聞こえてきます。しばらく時間を過ごした後、落ち着いた様子で出ていかれる方の姿が見られます。相談があるときだけでなく、一休みしたいな、と感じたときにも学生相談室を訪れてみてください。御父母の皆様からもお勧めいただければ幸いです。

学生相談室

だより 125

カウンセラー 濱田祥子